

## 日本教育心理学会 論文作成の手引き

本手引きは『教育心理学研究』執筆要項を補い、原稿記述の詳細について説明したものです。『教育心理学研究』のほか、『教育心理学年報』および『日本教育心理学会総会発表論文集』の論文執筆の際にも参照してください。

赤字部分はアメリカ心理学会の2020年発行の *Publication Manual* (7th ed.) をもとに2020年10月1日付で改定した箇所です。

### 1. 論文題目

- (1) 副題がある場合は、副題の前後を2倍ダッシュ（——）ではさむ。
- (2) 題目の英訳は、主要語（From, With など、4文字以上の前置詞を含む）の頭文字を大文字とする。

### 2. 見出し

- (1) 見出しは、ゴシック体とする（太字にはしない）。
- (2) 見出しには、番号は付けない。
- (3) 中央大見出しは、行の中央におき、その上下は1行あける。
- (4) 横大見出しは、行をあけず左端から書き、本文は改行して、全角1字あけて始める。
- (5) 横小見出しは、行をあけず左端から全角1字あけて書き、本文は全角1字あけて書く。

### 3. 本文

- (1) 本文は、日本語論文の場合、A4版縦置き・横書きで、左右の余白を5.5cm以上とし、1枚の字数は24字×45行（刷り上がり2段組みの1段にあたる）とする。
- (2) 各ページにページ番号と行番号を記載する。行番号はページごとに1から振り直し、すべての行に付ける。
- (3) 本文には論文題目や要約を含めない。
- (4) 文字フォントは明朝体とする。
- (5) 句読点は「、」と「。」を用いる。
- (6) 統計量を表す記号はイタリック体とする。
- (7) 強調のための太字や下線は用いない。
- (8) 脚注がある場合には、ページごとには入れず、引用文献の後に、ページを変えてまとめて入れる。
- (9) Appendixがある場合は、引用文献の後に、ページを変えて入れる。

#### 4. Table と Figure

- (1) Table と Figure 内の文字や数値は、本文のフォントとあわせて明朝体とする。
- (2) Table は、Table の上に Table 番号と Table の題を書く。番号の後は改行し、番号、題とも左寄せとする。題の最後に句点 (.) は付けない。また、Table 番号のみ、Table 1 のように太字とする。
- (3) Figure は、Figure の上に Figure 番号と Figure の題を書く。番号の後は改行し、番号、題とも左寄せとする。題の最後に句点 (.) は付けない。また、Figure 番号のみ、Figure 1 のように太字とする。
- (4) Table 中の見出しと数値は中央そろえとし、Table の左端の項目は左そろえとする。
- (5) Table 中の数字が、比率や相関係数のように（絶対値が）1 を超える値をとらないものである場合、1 の位の 0 を付けずに、小数点と小数点以下の数字のみを書く。
- (6) Table の注は Table の下に左寄せでおき、説明文の終わりには句点 (.) を付ける。ただし、説明が文でなく、短い語句のときは句点は付けない。
- (7) Table 全体に関する注は、Table 中には符号を付けず、「注）」（複数の場合は番号も付ける）と書いてその後に書く。
- (8) Table 中の特定の部分に関する注は、Table 中の該当箇所符号を上付きのアルファベット小文字で付け、その符号ごとに説明する。
- (9) Table や Figure で統計的な有意水準を示すには、数値の右肩に上付きの「\*」や「\*\*」を付け、Table の下に左寄せで、「\* $p < .05$  \*\* $p < .01$ 」のようにコンマやピリオドを入れず、全角 1 文字あけて並べる。
- (10) Table や Figure は、不要な色や線は除去して、印刷に適したシンプルなものにする。
- (11) Figure の注は、上記 (5)～(7) の Table の注に準じる。

#### 5. 結果の表記

- (1) 信頼区間は、95%CI[0.3, 1.2]のように表記する。

#### 6. 文献の引用

- (1) 著者が 2 名の場合は、引用するたびに両著者名を書く。著者が 3 名以上の場合は、初出のときから第 1 著者の名前と「他」（英語文献の場合は“et al.”）とする。ただし、省略表記することによって、異なる著者の組が刊行年を含めても同じ表記になる場合は、第 1 著者から順に区別をつけるのに必要な数の著者名を書く。
- (2) 翻訳書を引用する場合は、原著者名と原著書の刊行年、および翻訳書の翻訳者名とその刊行年を示す。文章中では「Loftus & Loftus (1976 大村訳 1980) によれば…」とし、かっこ内で表示する場合には「…とされている (Loftus & Loftus,

1976 大村訳 1980)。」のように記載する。

- (3) 同一箇所でも複数の文献を引用するときは、文末のかっこ内に引用文献と同じ順番で並べ、セミコロンで区切る。著者名と刊行年はコンマで区切り「…ことが示された(鈴木・上林, 2014; 山川, 2010)。」のように記載する。

## 7. 引用文献

- (1) 引用文献欄の見出しは、論文の種別によらず、「引用文献」とし、中央大見出しとする。
- (2) 引用文献の2行目以降は、全角1字分下げる。
- (3) 引用文献の副題は、日本語文献の場合は1倍ダッシュ(一)の後に続け、副題の後にはダッシュをつけない。外国語文献の場合は半角のコロンの後に半角あけて続ける。
- (4) 句読点は半角のコンマと半角のピリオドとし、最後の句読点を除き、句読点の後は半角あける。
- (5) かっこは半角とし、右かっこの後に句読点を付ける場合と逐次刊行物の巻の後に号を入れる場合以外は、かっこの前後を半角あける。
- (6) 印刷中の論文は、刊行年の箇所に「(印刷中)」と明記し、投稿中の論文は、末尾に「(投稿中)」と明記する。投稿中の論文については投稿先の雑誌名は書かない。
- (7) 日本語文献の著者名の姓と名の間は、姓または名(両方の場合を含む)が1文字である場合に限り、半角あける。
- (8) 日本語文献が共著の場合、各著者名の上に全角のナカグロ(・)を入れる。
- (9) 特に以下の点には留意すること。
  - a) 日本語文献と外国語文献をまとめて、著者のアルファベット順に並べる。
  - b) 引用文献の発行年の記載は、著者名の後、半角スペース、半角左かっこ、年、半角右かっこ、半角ピリオドとする。
  - c) 外国語の論文題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにはしない。
  - d) 外国語の雑誌名は、主要語の頭文字を大文字とし、イタリックにする。
  - e) 外国語の書籍題目は、主題および副題の最初の文字のみ大文字とし、イタリックにする。
  - f) 逐次刊行物の巻数は、イタリック体とする。
  - g) 逐次刊行物の巻の中に号がある場合、号は巻の後にかっこに入れ、イタリック体にしな~~い~~。ページ範囲は、巻を通したページ番号が入っている場合は、巻の通しページ番号を記載する。
  - h) 翻訳書には原著者名、原著書名、刊行年も明記する。

例) Zimmerman, B. J., Bonner, S., & Kovach, R. (1996). *Developing self-regulated learners: Beyond achievement to self-efficacy*. American

Psychological Association. (ジーマーマン, B. J., ボナー, S., & コーバック, R. 塚野州一・牧野美知子 (訳) (2008). 自己調整学習の指導—学習スキルと自己効力感を高める (北大路書房)

- i) 編集書等の特定章を引用する場合、ページ範囲は書籍名の後に入れる。  
例) 柴山 直 (1999). 不完全なデータから総合得点を求める方法 柳井晴夫・前川眞一 (編) 大学入試データの解析—理論と応用 (pp. 125-133) 現代数学社
- j) 書籍の場合、国内外とも、出版社の地名は記載しない (上記 h の例参照)。
- k) 著者が 2~20 名の場合、全著者の名前を並べ、英語文献の場合は最後の著者の前に “&” を入れる。著者が 21 名以上の場合、最初の 19 名の著者名の後、省略記号(…)を入れ、英語文献の場合も “&” は入れずに、最後の著者名を追加する。
- l) URL を記載する場合は、特に閲覧日を示す必要があるとき以外は、“Retrieved from” や閲覧日は付けず、URL のみを記載する。
- m) DOI (digital object identifier) が付されている文献は、末尾に “<https://doi.org/>” の形式で DOI を含める。  
例) 桑原知子 (1986). 人格二面性測定の試み—NEGATIVE 語を加えて 教育心理学研究, 34(1), 31-38. [https://doi.org/10.5926/jjep1953.34.1\\_31](https://doi.org/10.5926/jjep1953.34.1_31)
- n) 本文で引用した文献がすべて引用文献欄にあるか、また、引用文献欄の文献をすべて本文で引用しているかを確認する。

## 8. 付記

- (1) 論文の末尾 (引用文献の後, Appendix がある場合はその前) に「付記」を入れる。  
「付記」には、企業等との共同研究である、または企業等から助成を受けた研究である等、利益相反に関連する事項がある場合はその内容を記載する。利益相反に関連する事項がない場合は「本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。」という一文を記載する。
- (2) 「付記」には、利益相反に該当しない研究助成や謝辞等を含めることができるが、これらは論文が採択された後、最終稿提出の時点で記載することとし、投稿時には記載しない。また、「謝辞」等の他の見出しは用いない。
- (3) 「付記」で、論文のもととなった学会発表や報告書等に言及する場合も、投稿時には記載しない。

以上